

## 抄 録

## ◎耳科學雜抄 (第二稿)

(一) 内耳ニ於ケル神經萎縮ニ就 (Zeitschr. f. Heilk.)

X. 8. 336.)

ハーベルマン Habermann 氏ハ多少高度ナル神經消失ヲ  
發見シタル一二ノ内耳疾患ニ就テ報告セリ

第一「ファル」ハ五十一歳ノ女子ニシテ鏡檢上神經節管、  
螺旋狀板及コルチ氏器官并ニ右蝸牛殼尖頂迴轉ノ大部  
ニ於テ完全ナル神經ノ欠損ヲ存セリ神經節管及螺旋狀  
板ハ一ノ空虚ナル鞘トナリ從前神經及神經節ヲ存スヘ  
キ部ニ於テ少許ノ膠樣結締織ト一二ノ小ナル血管ヲ證  
明シ得タリ蝸牛殼迴轉ノ下部ニ於テハ基底迴轉ニ至ル  
マテ神經ヲ存セリト雖モ常体ニ於ケルカ如ク充分ニ存

セサリキ且ツ基底迴轉ノ終部ニ於テハ一二ノ螺旋狀板ノ纖維ヲ發見セリ蓋シ其病歷詳ナラサリシモ氏ハ其變化ノ原因ヲ左ノ如ク説明セリ即チ該女子ハ死スル八年以前外傷シ解剖上右顱頂骨顱顳骨直上於テ長五仙迷ノ陷沒ヲ遺殘セルヲ以テ左蝸牛殼尖頂ニ於ケル神經ノ消失ハ外傷ノ結果ナラント而シテ此陷沒ノ中部ハ聽官中樞ニ適當セリ又氏ハ謂ヘラク該部腦表面ノ挫傷ハ恐ラシハ聽官中樞ノ毀傷ト之ニ屬スル神經道路ノ消失ヲ來タシタル者ナラント

第二「ファル」ハ聾聵ノ一女子年齡五十歲鏡檢上右耳ニ於テ蝸牛殼ノ基底部及中部ノ神經消失、神經節細胞ノ減少、コルチ氏器官及コルチ氏膜ノ欠損ヲ證明シ神經節管及神經鞘ニ於テハ結締組織増殖シ蝸牛殼樁段及圓窓部ニ於テハ亦結締組織ノ増殖ト骨ノ異常發生ヲ存シ前庭ニ於テハ骨膜ノ肥厚ヲ現ハセリ而シテ氏ハ此等ノ變化

ヲ以テ從前存在セシ炎症作用ノ結果ニ由ルモノナリトシ其神經纖維及神經節細胞ノ破壞ハ螺旋狀板及神經節管ノ狹小ナル內腔ニ於ケル滲出物ノ壓迫ニ由リテ來リシ者ニシテ殊ニ其炎症ハ腦脊髓膜炎ノ爲メニ起炎物質ヲ蜘蛛膜下腔洞ヨリ內耳ノ淋巴管周圍ニ向テ侵襲シタル者ナラン云々ト

## (2) 慢性中耳化膿ニ於ケル鼓膜ノ切除 (Med. News

1889, No. 18.)

二十三歳ノ一婦人年來中耳化膿ニ罹リシユラプチル氏膜ニ穿孔ヲ存セリブルチット Ch. H. Burnett 氏ハ之ニ鼓膜及槌骨柄ノ切除ヲ行フテ治癒セシムルヲ得タリ即チ從前不良ナリシ聽覺モ手術後大ニ輕快セリト云フ

## (3) 耳患ニ於ケル「ロカイン」療法ノ利害 (Monatss

chr. f. Ohrenheilk. No. 2)

パウムガルテン Baumgarten 氏ハ數實驗ニ由リキ―セル

「Kisselbach氏カ「カテーテル」ヲ用ヒ「コカイン」溶液ヲ中耳内ニ注入シテ耳鳴ヲ減スルト云ヒシ説(本會雜誌第拾貳號ニ抄録セリ)ヲ確定セリ又B氏カ實驗ニ據レハ人工鼓膜トシテ用フヘキ綿ニ五乃至十「プロセント」ノ「コカイン」溶液ヲ浸シテ送入スルハ能ク聽覺ヲ善良ナラシムト云ヘリ而シテ氏ハ此作用ハ「コカイン」ノ爲メ血管ニ變化ヲ呈シ粘膜腫起ヲ減シ以テ耳小骨ノ運動ヲ容易ナラシムルニ因ル者ナリト説明セリ然レモ氏ハ又此法ヲ用ヒテ「コカイン」中毒ニ罹リシ「ファル」ヲ實驗セリ即チ五「プロセント」ノ「コカイン」水ニ乃至三滴ヲ外聽道ヨリ穿孔セル鼓膜ヲ通シテ鼓室ニ點入セシニ數分ニシテ眩暈頭痛嘔吐ヲ起シ暫時ニシテ又恢復セリ

(4) 迷路壞疽ノ「ファル」(Werteb. med. Corresp.

-Blatt 1899. No. 37.)

ワイル「Weil」氏ハ迷路壞疽ノ「カズイスチック」トシ一實驗ヲ報セリ即チ四歳ノ小兒一年前百日咳ニ罹リ左耳ノ化膿ヲ來タシ半年前ヨリ左顔面神經麻痺ヲ起シ百方治療(硝酸銀腐蝕等)ヲ受ケシモ功ナク遂ニワイル氏ノ治ヲ乞ヘリ其際左耳ニハ「ポリープ」アリテ不快ノ臭氣アル分泌物ヲ漏ラセリ依テ氏ハ「ポリープ」ヲ切除シ防腐藥ヲ注入シ置キシカ第三日ニ外聽道ノ深部ヨリ長十七密迷幅(最廣部)十二密迷ノ黒色硬固ナル体ヲ出タセリ之ヲ精檢セシニ一ノ死骨片ニシテ充分迷路ノ形ヲ存セリ次テ三日ノ後化膿止ミ只顔面神經麻痺ノミヲ殘セリト云フ

患者ノ父カ言ヒタル既往症中曾テ眩暈モ他ノ腦症モナカリシト云フカ如キハ實ニ奇異ナリト謂フヘシ

(以上四項)

山崎秋津磨 抄録

# ◎外傷性及反射性神經障害ニ就テ(Nur

Casistik und klinik der Traumatiscen und

Reflexpycosen R. thomsenCharite Annalen

XIII. S. 429)

エル、トムゼン氏 R. thomsen ハ興味アル精神病ノ四「ファ  
 ル」ヲ報告セリ就中第一「ファル」ニ在テハ追跡<sup>（ハルヲナシオン）</sup>忘想ニ罹  
 レル者ニシテ只其半側ニ幻覺ヲ現ハシ又頭部ノ左側ニ  
 外傷ヲ受ケシアルカ常ニ該側ニ於テ聲音ヲ聴取セリ  
 其他患者ハ中心視野ノ限局ヲ現ハセシモ爾餘ノ知覺障  
 害ヲ欠如セリ而ノ T 氏ハ此視野限局ノ單ニ現ハル、ヲ  
 以テ最モ希有ナル者ナリトセリ第二「ファル」ニ在テハ  
 鉄道ノ衝突ニ由リ頭部ヲ震盪シ外傷性譫妄ノ性質ヲ具  
 ヘタル持續性ノ精神障害ヲ現ハシ且ツ久ク持續シタル  
 神經障害殊ニ皮膚及五官ノ知覺脫出ヲ現ハセリ依テ氏  
 ハ之ヲ以テ「Railway brain」ニ其因シタル者トシ就中

其持續性知覺障害ノ如キハ外傷ト疾病ノ關係ヨリ考フ  
 ルニ甚タ興味アリト云ヘリ第三ノ「ファル」ニ在リテハ  
 患者遺傳素因アルモ從來健全ナリシカ拾四歳ノ時臂ニ  
 銃創ヲ受ケ其際敢テ神經幹ヲ毀傷セサリシモ爾後臂ノ  
 疼痛ヲ發スルヤ直チニ幻覺精神障害ノ發作ヲ來シ其發  
 作ハ常ニ癱瘓部ノ疼痛ニ由リテ規正ニ誘發セラレ各發  
 作ノ極精神錯亂シ間歇時ニモ又疾病ノ看ヲ呈シ發作間  
 ハ癱瘓ニ適スル半身―右側―ニ於テ皮膚及五官ノ知覺  
 脫失ト左耳ノ聾ヲ現ハシ甚スキニ至リテハ青綠色盲ヲ  
 呈シ精神錯亂消散セントスルニ至レハ同時ニ知覺脫出  
 、視力欠損消褪シテ尋常トナリ聽覺モ亦漸々兩側同等  
 トナリテ故ニ復セリ而ノ癱瘓ヲ切除セシニ四日ヲ經テ  
 更ニ一回輕度ノ發作ヲ來シ二十四時間持續セシモ爾後  
 上記ノ障害全ク消失シ手術後數月ヲ經シモ更ニ再發ヲ  
 見サリキ第四ノ「ファル」ニ在テハ手ノ外傷シタル後癱

癩發作ヲ現シタル者ニシテ癩痕ヲ切除セリ而シテ該發作ハ主ニ半身ニ現シ癩痕部ヲ壓スルニ解散シ手術熱ノ爲メニ患者精神恍惚トナリ言語障害ヲ來シ十四日ノ後健忘ト共ニ視力朦朧トナリ加之暫時持續シタル幻覺性遁跡思想ヲ發シ其思想ハ一周ニシテ全ク恢復セリ其他癩變發作ノ際中心性視野狹縮ヲ現セシハ蓋シ精神障害ニ基因シタル者ニシテ精神障害去ルト同時ニ亦消散セリ然レモ知覺脫出ハ尙ホ久シク存在セリ

### ◎室扶斯菌ニ關スル報告

(第一)井水中ニ於ケル室扶斯菌ノ關係ニ就テ(Arch. f. Hyg. IX, 1889, S. 432.)

モット、カルリンスキイ J. Karlinzki 氏ハバッテンコーフェン Pattenkofer 氏ノ指導ニ從ヒエムメリヒ Emmerich 氏ノ助ニ由リ繆顯府衛生學教室内ノ井ニ就テ室扶斯ノ生活力ヲ試驗セリ第一試驗ニ在テハ四日間「ブルートシュラ

ンク」ニ於テ攝氏三十五度ノ溫度ニ由リテ「バイルロン」培養(一立方仙迷中七十二「ミルリオン」ノ芽萌ヲ有セリ)ヲ施コシタル者五律篤兒ヲ攝氏一〇、五度ノ溫ヲ有スル七百八十律篤兒ノ井水ニ混和シ十四日ヲ經テ扁平試驗ニ由リテ其水ヲ檢査セリ第二試驗ニ在テハ室扶斯菌ヲ浮遊セシメタル所ノ消毒シタル蒸溜水四百立方仙迷(一立方仙迷中九「ミルリオン」ノ芽萌ヲ存セリ)ヲ井水ニ加ヘ其濕度ハ試驗中即チ八日間九、四度―九、七度ノ間ニ昇降セリ然ルニ室扶斯菌ハ第三日ニ至リ尙証明シ得タリ第三試驗ニアリテハ十四ノ「ゲラチン」培養ヲ行ヒ由之一立方仙迷中ニ五、六〇〇、〇〇〇ノ芽萌ヲ浮遊セシタル水二百五十立方仙迷ヲ作り之ヲ井水ニ混和ノ檢査セシニ室扶斯菌ハ只  $3 \times 24$  時間之ヲ証明スルヲ得タリキ第四試驗ニ在リテハ五ノ「ゲラチン」培養ニ由リテ製シタル水百立方仙迷(一立方仙迷中二、一〇〇、〇

〇〇ノ芽萌ヲ存ス）ヲ井水ニ加ヘテ試験セシニ二十四時間ノ後更ニ窒扶斯菌ヲ証明スルヲ得サリシト云フ  
 (第二)地中ニ於ケル窒扶斯ノ關係 (Arch. de med. exper. et d'anat. pathol. I. p. 33)

窒扶スト水ノ關係ニ就テハ既ニ傳染病學上及流行病上ノ材料ニ富ミ且諸大家ノ研究ハ一致シタル成績ヲ與ヘタリト雖モ窒扶斯菌ト土地ノ關係ニ就テハ只地下水ノ上下ニ付キ即チ其地水層深キモ窒扶斯ノ發病ヲ促ス者ナルヲ知了セルノミ其深遠ナル看察ニ至リテハ未ダ試験上ニ満足スヘキ結果ヲ得サルカ如シ

窒扶スト土地ノ關係ニ付キグランヘル及デシャンプス Grancher u. Deschamps ノ兩氏ハ試験上左ノ問題ヲ研究セリ

(一)土地表面ニ來リシ窒扶斯菌ハ深ク地中ニ入り地水層ニ達シ得ル者ナルヤ

(二)幾何時間地中ニ於テ發育作用ヲ保チ得ルヤ  
 (三)窒扶菌ハ地中ヨリ、地上ニ發生セル野菜中ニ入り得ル者ナリヤ

(一)(二)ノ問題ニ付テハ高二、四迷突兒直徑十七仙迷ノ三箇ノ亞鉛圓壻ヲ作り其側方ニハ二十仙迷毎ニ一ノ開閉シ得ヘキ小孔ヲ設ケ其中ニハ土ヲ充タシ一部ハ鬆ニシ一部ハ密ニシテ充填シ其上ヨリ窒扶斯菌ノ浮遊セル液ヲ澀キ更ニ三管共ニ異種ノ液ヲ注キ數日數周ヲ經テ其上ニ消毒シタル水ヲ滴注シテ驗査セシニ土層ヲ通ノ流下シタル水中ニ於テハ更ニ窒扶斯菌ヲ發見セカリキ又側方ノ孔ヨリ各土塊ヲ出シ之ヲ檢セシニ地中四十仙迷ノ深サニ至ル迄ハ窒扶斯菌能ク進入シタルモノ、如シ其他窒扶斯菌生活ノ持續ヲ檢セシニ該地層中ニ於テハ五ヶ月半ノ後尙ホ生活力ヲ有スルヲ証明セリ  
 (三)ノ問題ヲ解センカ爲メ土ヲ充タシタル箱ニ於テ大

根、萵苣、「カロテン」等ノ種子ヲ播蒔シ該種子未タ土ヲ被ラサルニ先チ室扶斯菌ヲ浮遊セシメタル水ヲ灌注シ又同時ニ箱中ノ土ニ灌溉セリ而シテ發生シタル野菜ニ付テ檢セシニ其中ニハ該室扶菌并ニ爾余ノ有機小体ヲ存在セサリキ依テ他ノ土地ニ發生シタル野菜ハ充分消毒シ得タル者ナルヲ證明セリ

### ◎惡性水腫ニ就テ(東京醫學會第三回總會)

帝國大學講師ドクトル、スクリバ氏ハ日本ニ於ケル惡性水腫報告ノ嚆矢ナリトシテ二例ヲ公ニセリ

第一患者ハ頸部膿瘍切開後惡寒戰慄發中等ヲ呈シ頸部腫脹シ觸ル、ニ捻髮音ヲ發シ胛骨部ノ後ニ壓重ノ自覺アリ其部ノ皮膚ハ健全ナルモ壓スレハ重感増加セリ依テ惡性水腫ニシテ縱隔洞ヲ侵セシモノトシ分泌液ヲ膠質營養基ニ接種シタルニ瓦斯ヲ發シ氣胞ヲ營爲スルヲ尋常惡性水腫ノ杆狀菌ノ如クナルモ氣胞ノ形狀扁平蠟

殼狀ニシテ球狀ナラス氏カ歐州ヨリ實シタル菌ニ比シテ細少ナリシト後患者死亡シ剖見ヲ行ヒシニ頸部氣腫ノ浸淫甚シク延テ橫隔膜ニ及ヘリ茲ニ數週ヲ閱メ第二患者ハ足部外傷ノ爲ニ入院シ前患者ト同室ニ投シ惡寒戰慄熱發中等ヲ呈シ氣腫性捻髮音ハ大腿上部ニ蔓延シ下脚ノ半ハ壞疽ニ陷リタルモ分畫線ヲ生メ全治セリ

氏ハ以上二例ニ由テ常ニ戰慄ヲ以テ初リ舌ハ苔ヲ被リ(長經過ヲ取ルヤ濕潤ス)氣腫速ニ蔓延シテ脈搏ニハ固有ノ變狀ヲ見ス云々又氏ハ縱隔洞燃衝ノ疑アル際胸骨ヲ壓シテ壓重ノ増加スルハ該疑診ヲ解クノ診斷的兆候ナリト

終リニ氏ハ近時人ノ稱賛スル「ヒオクタミン」ハ其礎石ヲ含マサル以上ハ全ク無害ニシテ蛋白質ヲ凝固セス以此症ニ應用セハ奇効ヲ奏スルナラント云ヘリ

(以上三項)

R、S 生 抄 錄

## ◎必魯加兒品ニ就テ

Witkowsky 氏ハ不良ノ疾病ニ原因セサル三十人ノ黃胆患者ニ「ピロカルピン」ヲ用テ常ニ良効ヲ得タリ氏ノ經驗ニ由レハ十日乃至十二日間之レヲ持續シテ効ナキ者ハ肝藏ニ深キ器藏的障害アルヲ知リ得ヘシト亦氏ハ四年以來黃胆ニ罹リタル一患者ニ三週間毎日一二回〇、〇一ノ「ピロカルピン」ヲ用エテ治癒セシメタリト

Hochalt 氏ハ「ピロカルピン」〇、〇一乃至〇、〇二ヲ慢性關節炎殊ニ頑固ノ漿液性滲出物ヲ有シ且ツ僅少ノ結締織性ノ強直ヲ起セル者ニ稱用セリ (Wiener med. Wochenschr. 1880, No. 33)

## ◎「ジウレチン」ニ就テ

「ジウレチン」Diuretin ハ脈膊及呼吸ニ變化ヲ及ホサス只腎臟ニノミ働ク最良ノ利尿劑ニノ實地上奏効ノ確實ナルハ諸氏ノ實驗ニ由テ明ナリ然リト雖凡防間販賣ス

ル處ノ者ハ不定ノ「テナブロミン」ヲ「Theobromin」ヲ含有スルカ故ニSchroeder 氏ハ四十八%ノ「テナブロミン」ヲ含有スル「ジウレチン、クノル」ヲ稱用セリ

處方 「ジウレチン、クノル」五、〇一七、〇

薄荷水 一〇〇、〇

單舍利別 一〇、〇

右一乃至二時間毎ニ一食七ヲ與フ (Wiener med. Wochenschr. 1890, No. 32)

## ◎萎黃病ニ於ケル「ヘマチン」及鉄

ノ排泄

H. v. Hoesslin 氏ハ六十七人ノ萎黃病患者中二十五人(三十七%)ハ糞便中ヘマチン及鉄排泄ノ増加セルヲ確定セリ今健康ナル處女ニ就テ之レヲ檢スルニ百瓦ノ乾燥セル糞便中二十八密瓦ノ鉄ヲ含有シ、内三密瓦ハ「ヘマチン」ト結合セリ然ルニ二十五人ノ萎黃病患者ノ鉄

(抄錄) 必魯加兒品ニ就テ〇「ジウレチン」ニ就テ〇萎黃病ニ於ケル「ヘマチン」及鉄ノ排泄五百十五



(抄録) 舌乾燥症ニ「ピロカルピン」〇「エキサルギン」ノ治療の價值〇扁桃腺炎ニ〇梅毒性發熱 五百十六

含量ハ一百十三—二百三十四密瓦迄増加シ中、十七—百十三密瓦ハ「ヘマチン」ト化合セリH氏ハ此原因ヲ腸胃粘膜ノ毛細管出血ニ依ル者トシ之レカ爲メニ漸々貧血ニ陥ルト云ヘリ、但一密瓦ノ鉄ハ〇、五ノ「ヘモクビン」、或ハ通常血液ノ四立方仙迷或ハ萎黃病患者血液ノ六—九立方仙迷中ニ含有スト (Munchener med. Wochenschr. 1890, NO. 14)

### ◎舌乾燥症ニ「ピロカルピン」

Bloekmann 氏ハ強甚タル舌乾燥症ニ「ピロカルピン」〇、〇〇三—〇、〇〇六ヲ稱用セリ蓋シ此藥ヲ與フルキハ二十四時間唾液ノ分泌持續シ口中ニ一種爽快ノ味ヲ感ス然レモ汗腺ノ分泌ハ別ニ亢進セスト云ヘリ (Wien. med. Wochenschr. 1890, Nr. 35)

### ◎「エキサルギン」ノ治療の價值

A. Atkinson 氏ハ「エキサルギン」〇、一八—〇、三〇ヲ種

々ノ神經病ノ二十四「ファル」ニ反復シテ用ヒタリト雖モ只僅カノ場合ニノミ効アリシ又往々齒痛ニ用ヘ緩解セシコアリ然レモ一般ニ之レヲ論スルキハ稱用スヘキ藥ニアラスト (Wiener med. Wochenschr. 1890, Nr. 34)

### ◎扁桃腺炎ニ Veratrum viride

Hudson 氏ハ甚タ多數ノ扁桃腺炎患者ニ蒜薺蘆丁幾ヲ用ヘ非常ノ良効ヲ得タリ其用量ハ毎三時四—五滴ヲ與フルニアリ若シ惡心ヲ催スキハ毎回莫爾比涅〇、〇〇一ヲ加フ但シ此療法ハ發病後二十四—三十六時ヨリ初ムベシト (W. med. Wochenschr. 1890, Nr. 35)

### ◎梅毒性發熱

Philipp 氏ハ九歳ノ梅毒ヲ有スル一男子、三日間歇熱ヲ患ヘ同時ニ頭痛嘔吐等ヲ發セル者ヲ診シ之レニ規尼涅ヲ與ヘシモ効ナク反テ沃度加里及水銀ヲ用ヘシニ諸症速ニ治癒セシヲ經檢セリ氏ハ之レヲ梅毒性ノ者トノ判

斷セリ (Wiener med. Wochenschr. 1890, Nr. 31)

(以上七項) 飯森益太郎 抄録

### ◎坐魯兒ノ皮膚病ニ於ケル効用

Saalfeld氏ハ五十%ノ「ザロール」軟膏ヲ傳染性イムベキ  
一ゴ及甚タシク膿ヲ分泌スル濕疹ニ用ヘテ良効ヲ得  
タリ又一男子ノ頑固ナル寄生性蟬瘡ニ左ノ軟膏ヲ稱用セ

炭酸加里 一、〇 阿列布油 一〇、〇

酸化亞鉛 澱粉 各一五、〇

ザロール 五、〇 硫黃 六、〇

ラノリン 一〇〇、〇

右混合軟膏トス (Therapeut. Monatsh. 1890, No. 1.)

### ◎瘡癬ノ療法

Saalfeld氏ハ三一六%ノ「メントール」酒精溶液ヲ石炭

酸或ハ水楊酸溶液ヨリ有効ナル者トシ瘡癬ニ用エタリ

又「メントール」ラノリン軟膏ヲ主トシ老人瘡癬ニ稱用

セリ (Therapeut. Monatsh. 1890, No. 1)

### ◎虱生病ノ療法

Saalfeld氏ハ陰毛蟲等ニ左ノ昇汞錯ヲ用ヒテ良効ヲ得  
タリ

昇汞 一、〇 醋 三〇〇、〇

右混和患所ニ塗擦ス (Therapeut. Monatsh. Nr. 1, 1890)

### ◎頑固ナル嘔吐ノ療法

(1) 沃度丁幾 十六滴

蒸溜水 六〇、〇

右混和毎三十分一茶ヒ宛用フ

(2) 結麗阿曹篤 二十滴

醋酸 四十滴

硫酸莫兒比涅 〇、一二

(抄録) 坐魯兒ノ皮膚病ニ於ケル効用○瘡癬ノ療法○虱生病ノ病法○頑固ナル嘔吐ノ療法五百十七

蒸溜水

六〇、〇

右混和每三十分二—三茶匕宛與フ

(3) 石炭酸

一滴

コロ、ホルム

三滴

再溜酒精

二十滴

蒸溜水

十五瓦

右混和頓服ス尙効ナキハ再ヒ反復ス之レ殊ニ亞細

亞虎列刺ニ用エテ効アリ

(4) 妊婦ノ嘔吐ニハ左方ヲ用フ

(a) 阿片丁幾

三十滴

臭素加里

一、八

亞括

六〇、〇

右混合灌腸科トス

(b) 稀酸セリユム

〇、六〇—〇、八〇

右一日三回分服

(c) 鹽酸コカイン

〇、四二

蒸溜水

三〇〇、〇

右毎時一—二食匕ヲ與フ但シ眩暈ヲ防ク爲メニ暫時

仰臥セシム

(d) 流動ウイブリニ越幾斯

三、七五

右數回ニ間斷ナク與フ [(Zeitschrift f. Therapie 1890,

No. 1)]

(以上四項)

界外仙史 抄錄

## 雜 錄

◎比氏眼療術 (第五稿)

會員 寺西幸作

結膜水泡局所療法ノ一部屬トシテ鼻ノ局所療法ヲ行フ

ヘシ

## 方

沃度仿

〇、五

ワゼリン或ラノリン

一〇、〇

毛筆ヲ添ヘ與ヘ毎夕鼻中ニ塗入スヘシ

之ニ由テ眼病ノ經過短縮シ且ツ再發ヲ防クヲ得ルナ  
リ

眼瞼ノ濕性「エクツエマ」ニハ「テール」塗布ヲ以テ最

良トス

## 方

テール

一〇、〇

毛筆ヲ添ヘ與フ

但シ眼瞼破裂ニ注意シ「テール」ヲノ結膜囊内ニ入ラサ  
ラシムヘシ而シテ通常隔日或ハ二日毎ニ塗布シ新鮮表皮  
細胞層ノ發生スルニ至ルヘシ

伴發スル眼瞼腺炎ニハ黃降汞軟膏功アリ毎夜之ヲ眼瞼

縁ニ塗り翌朝翳法ヲ行フ前ニ之ヲ洗去スヘシ

之ニ反シ從來人ノ好ム所ノ誘導法即顫顫部ノ串線、耳  
后ノ發泡膏及水蛭ハ全ク無益ニシテ却テ害アリ

「クリセツト」氏曾テ比氏ニ謂テ曰ク腺病性小兒ノ顫顫  
部ニ小ナル串線ヲ行フハ實ニ偉功アリト然レモ比氏ハ  
之ニ反對ノ意見ヲ抱ク發泡ハ如此小兒ニ於テハ容易ク  
「エクツエマ」ヲ發シ且不快ノ后發作用ヲナス又如此患  
者ノ血液ヲ奪ハンヨリハ寧ロ輸入センコソ願ハシケレ  
水銀膏及莢蓉膏ヨリナル前額軟膏ハ「處方」トシテ見ルヲ  
得ルモ治癒藥ト看做ス克ハス

概括スレハ結膜水泡ニハ局所藥大ニ功アリ然レモ多ク  
ノ醫師中古昔ノ希臘的又ハ獨乙的法ヲ守リテ局所藥ヲ  
用エス彼不確實且緩慢ナル内治法ニ拘泥シ之而已ヲ以  
テ腺病性眼病ヲ治療スル者アルハ實ニ嘆スヘキノ至ナ  
リ

「ガーレン」氏モユングケン氏等ノ如ク同様ノ言ヲ以テ彼ノ劇シキ眼痛ニ阿片マンドラゴラ、及「ヒヨッシヤムス」ノ點滴ヨリ他ニ良法アルヲ知ラスノ該藥ノ爲ニ弱視、瞳孔散大等ヲ貽サシムル庸醫輩ヲ批難セリ」

素ヨリ患者眞ニ腺病性ナルキハ全身ノ狀態ニ着目スヘシ然レモ必ス眼炎ヲ治スルヲ先キニセサルヘカラス眼炎ハ大抵八日乃至十四日ニノ治スル者ナリ眼水泡ヲ有スル小兒ニ局處藥ヲ用エスノ放置シ只腺病の基礎ト戰フ如キハ實ニ殘酷ナリト云フヘシ恐クハ夏季海水浴ヲ行フ時期ニ至ルマテ荏苒トシ治セサルヘシ「フオン、グレーフェ」氏曰ク「眼炎ノ迅速ナル治癒ハ腺病ヲ速ニ治癒セシムル最緊要ノ方法ナリト蓋シ顔面ヲ水中ニ浸シ或ハ開瞼器ヲ用ユルヲ要セス只タ冷罨法、「アトロピン」コカイン液點眼及注意ノ光線ニ慣ルヲ由テ羞明

ヲ除キ以テ小兒ヲ戶外ニ運動スルヲ得セシメハ善良ノ營養自ラ恢復シ來ルヘシ」

腺病ノ治療ニ於テハ新鮮空氣及良好ノ滋養(肉食)其主位ヲ占ム然レモ此事タルヤ貧民社會ニ對シ實行スルノ極テ難シ嗚呼憐ムヘク又嘆スヘキニ非スヤ  
通常他ニ處方スヘキ者ハ寒冷ノ時候ニハ肝油ナリ又左ノ方ヲ用ユ

#### 沃鉄舍利別

四、〇乃至一〇、〇

#### 單舍利別

五〇、〇

右二才乃至五才ノ小兒ニハ一乃至二回半乃至一茶匕ヲ與フヘシ「ブルムメル」氏粉ハ功ナカルヘシ海水浴(海濱或浴場ニ至リ或ハ自宅ニ於テ人工的ニ作ル)深キ角膜潰瘍ヲ有セサル患者ニハ勸ムルヲ得ル而ノ再發ヲ防クニハ實ニ功アリ」

腺病性眼病ノ治療ハ多クノ醫師ノ考フル如ク價直ナキ

者ニ非ス此病ニ由テ盲人トナリシ者「ザクセン」ノ盲啞  
院内ニ六%存シ又一眼ヲ失フタル患者ハ外來患者ノ中  
數多アリト雖比氏力數年間々八千人ノ外來患者ヲ取  
扱ヒシカ早ク治療ヲ受ケ正シク醫命ヲ守リ又タ醫ハ經  
驗ニ由テ得タル救助法ヲ用エシニ拘ラス盲トナリシ眼  
ハ只一個アルノミ

(大尾)

## 本會記事

### 會員淺池幸吉君逝矣

君は金澤有名の開業醫にして夙に本會々員となり醫學  
の進歩に盡力せられしか不幸にも九月以來二豎の訪ふ  
處となり永々金澤病院に入り治療に手を盡されしかと  
天數はいかてか藥石を以て曲け得へき、遂に去月廿四  
日、四十一歳を一期とし溘然薨を易へられたり余輩は

茲に特筆大書して諸君と共に追悼の意を表せんとす  
噫、哀哉

### ◎第十七回常集會

去月十八日同會を第四高等中學校醫學部に於て開會せ  
り、當日は秋霖霏々として降り、爲めに會員の出揃遅か  
りしかと、割合に出席者多くして、總數三十七名を算  
ふ、席定まるや左の演說あり全く閉會せしは午後五時  
半頃なりし、

●第一席 中村順次(醫藥分業ハ目今ノ急務ナリ)

醫藥ハ是非トモ分業セサルヘカラス、醫師ニシテ藥ヲ  
賣ル時ハ之レ一種ノ商賣ニ他ナラス果ノ然ラハ來年一  
月ヨリ實施セラル、商法ノ支配ヲ受ケ味噌屋、團子屋  
等ト伍チ同フセサルヲ得サルヤ論ヲ俟サルナリ、吾人  
ハ今日尙ホ醫師ノ品格ヲ高尚ナラシメンコヲ務ムル者

ニアラスヤ去レハ此一點ノミニテモ分業ノ必要ナルヲ知ル況ンヤ他ニ多クノ分業セサルヘカラサル原因アルニ於テチャ云々

●第二席 森友道 (麻刺利亞ノ病理原因ヲ論シテ汚水「バチルス」ノ検査ニ及フ)

氏ハ間歇熱ノ名義、原因ヨリ金澤ニ於ケル該病ノ關係及當聯隊ノ兵卒ニハ比例的多クノ一種ノ定型ヲ有スルヲ述ヘ終リニ氏カ城外ノ壕水ヨリ得タル「バチルス」ノ培養試験ヲ爲シタル成績ヲ報シ其「プレパレート」ニ枚ヲ鏡下ニ照シ會員ニ示サレタリ尙ホ詳細ハ本號ニ掲ケタレハ就テ見ルヘシ

●第三席 田中正鐸 (病床餘塵)

弟扶斯ナル語ハ各國一般ニ通用スル言ナリト雖氏其國ニ依テ意味ヲ異ニスルヲ説キ獨英ニ就テ其例證ヲ掲ケテ原因ニ移リ目下氏ノ令聞カ該病ニ罹ラレシヲ以

テ日々其糞便ヲ試験シ遂ニ弟扶斯「バチルス」ヲ發見シタルトテ其「プレパレート」ヲ示サレ尙ホ培養試験ノ如キハ次回ニ報告スル旨ヲ約シ演壇ヲ降ラル

●第四席 飯森益太郎 (組織學的脈管注入料ノ追加) 和蘭人 Buijs 氏カ初メテ此術ヲ行ヒシ以來種々ノ變遷セシコ及其種類方法ヲ述ヘ次ニ氏カ創意ニ係ル角天溫注入料ノ製法ヲ細述シ且其「プレパレート」ニ枚ヲ鏡下ニ照シ會員ノ一粲ニ供セリ

●第五席 池龜祐藏 (特發性筋炎ノ實驗)

先ツ筋炎ノ原因症候ヲ略述シ次テ氏カ外科部ニ於テ實驗セラレタル一患者ノ既往、現症、療法等ヲ説キ其筋ヨリ得タル横斷「プレパレート」ヲ顯微鏡下ニ示サレタリ

●第六席 岡田剛吉 (多房性卵巢囊腫ノ「デモンストラチオン」)

去月婦人科ニ於テ手術セラレタル多房性卵巢囊腫患者

小森ティノ既往症、現症、手術ノ順備、術式及ヒ術後経過ノ善良ナリシヲ述ヘ手術ニ由テ得タル囊腫ヲ會員ニ示シ且ツ曰ク…………卵巢囊腫摘出術ハ恐ルヘキ者ニ非ラス寧ロ容易ナル手術ト云フヘシ故ニ該患者ニ逢遇スル時ハ務メテ手術ノ勧誘ニ怠ル勿レ…………ト  
其他山田謙治氏ノ趣考ニ係ル産科器械提帶器ノ輕便ナル者ヲ會員ニ示セリ

### ◎會員動靜

●會員藤彌博氏 は羽咋郡羽咋町コ百二十九番地へ轉宅せられたり

●會員中山久作氏 は今回敏夫と改名せられたり

●會員川瀬泰輔氏 は本市味噌藏町中丁六番地へ移轉せられたり

●會員高安右人氏 は本市味噌藏町下中町九十二番地へ移轉せられたり

●會員中村文雄氏 は此程醫藥分業の不可なる主意にて一編の書を寄せられしも餘白なきを以て此に略す  
●學生會員諸氏の多數は愈々來る一月十二日より卒業試問施行せらるゝに付目下晝夜を分たす非常に勉勵せらるゝ由余輩は只諸君か此大關門を難なく通過せられん事を祈る

### ◎新入會員

金澤市高岡町 醫學士 森 有道君

### ◎寄贈金員

一金三圓也 會員 田中 信吾君

### ◎寄贈書目

裁判醫學會雜誌	第三十三、四號	同會
熊本醫學會雜誌	第四十八號	同會
京都醫學會雜誌	第三十三號	同會



國政醫學會雜誌	第四十二號	同會
北越醫會々報	第三十一號	同會
實地醫報	第六號	同社
大坂興醫學社月報	第二十一號	同社
輓近外科學會報告	第十九號	同會
緒方醫院醫事研究會申報	第二十六號	同會
北海道醫事講談會月報	第十九、廿號	同會

雜報

●高等中學校制  
 以て發布せられたる文部省直轄學校官制中、高等中學校の改正規則は大抵従前に同しと雖も其異なる所は部長、教諭、助教諭を主事、教授、助教授と改め教頭を廢し各校に職員の数定められたるにあり我第四高等中學

校の定員は教授二十九人助教授二十七人書記八名なり  
 ●辭令 右改正の爲め去月十五日第四高等中學校教諭兼醫學部長木村孝藏氏は教授兼醫學部主事に同教諭黑柳精一郎、山田謙治、有松戒三、高安右人、川瀬泰輔、納富嘉博、村山長之助、の諸氏は教授に助教諭谷中正勝、田中正鐸、岸千尋、堤從清、水上鑛次郎の諸氏は助教授に任せられたり

●裁判醫學實驗科 今度當醫學部には學生をして殊に國政醫學を研究、熟煉せしむる目的にて新に裁判醫學實驗科なる者を設けられたり今其成立を聞くに檢屍及裁判上に關し醫師の鑑定を要する事件は一切該科に於て引受る事となし學生二名乃至五名を委員の助手とし之れか研究に従事せしむるにありと  
 ●右に就き 客月廿一日山田謙治氏は裁判醫學實驗委員長に谷中正勝、森島十太郎、飯森益太郎の三氏は

同委員を命ぜられたり

●學生の宿直 豫て報導せし如く醫學部生徒四年生以上は實地研究の爲め愈々去月十五日より學用患者の宿直を初めたり

●醫術開業試験 明治廿四年第一回醫術開業試験は左の箇所にて開設する旨去月二十五日の官報を以て公布せられたり

東京(四月十日) 長崎(四月十五日)

京都(五月五日)

又藥劑師開業試験の場所は左の如し

東京(五月廿日) 大坂(五月廿五日)

●第三回卒業試験 當醫學部第三回卒業試験は愈々明治廿四年一月十二日より初むる由にて受験者は三崎玉三、森亮、勝木直吉、山崎秋津麿、松本榮五郎、藤井伊之吉、輪達一郎、梁貫男、相澤新五郎、生駒廣太郎、清水

來吉、山田孝太郎、遠藤四郎、酒井米城、川西初太郎、野澤武三郎、納富嘉太郎、蓮村外男、笠間大作、河合久、米村吉三郎、竹本和太郎、濱田芳太郎、鶴見金十郎、廣野誠一郎、新田友三郎、手泉昭、小森三郎、正見伊三郎の二十九名なりと

●醫學全科卒業 醫科大學受験生山縣四郎(東京)今居眞吉(東京)高橋眞吉(東京)太田末夫(石川)平賀精次郎(山口)寺田織尾(東京)千葉彌一郎(千葉)の七氏は今回卒業試験に及第し醫學全科を卒業せられたり

●船舶検査の廢止 石川郡金石、同美川、江沼郡搦屋、能美郡安宅、羽咋郡福浦、珠洲郡小木の六湊には是迄船舶検査所を置き長崎、福岡、山口、佐賀熊本等の虎列拉流行地より入湊する船舶検査せしか目下病勢減退に付き去月廿五日限り之れを廢止せり又醫師に於て吐瀉の二症を兼ねたる患者の届出方も同時に廢止せり

と

●醫術開業試験及第者 本年第二回東京醫術開業

試験に及第せし者は前期二十一人后期二十五人なり

と

●嘱托 第四高等中學校教授今井省三氏は去月十二

日醫學部嘱托教員を命せられたり

●虎列刺治療法試験醫の派出 目今小亞細亞地方に

虎列刺流行せるを以て該患者に對し効ありと稱する

「フェルーフ、スムブル」草の効驗如何を試むる爲め露國

政府は特に醫員數名を派出せり但し該草は達爾給斯丹

地方に産し刺戟性を有する者にして痙攣を鎮制する特

効あり其搾汁は苦味甚しと(官報)

●津田淳氏逝く 舊石川縣金澤醫學學校卒業生津田淳

氏は大坂千島避病院奉職中虎列刺に罹り去月十七日死

亡せられたり氏の如きは能く其職務を盡したる者と云

ふへし

●大日本金澤製藥合資會社 當市の藥舗小泉作平、石

見谷伊兵衛等の諸氏發企人となり今度題名の如き會社

を設立し専ら醫藥、工業藥の精製、及び調劑、化學的の

分拆、衛生上の試験などの依頼に應じ傍ら藥品の賣買

をもなす由又た藤川次郎、渡邊爲三郎の二氏は同社の

技師たる約整ひしと云ふ

●秋期大運動會 去月廿五日醫學部學生一同は城南

大乘寺山に於て秋期大運動會を催せり當日は前日來の

雨天に引換へ小春の空イト麗かに満空一片の曇さへな

き程の好天氣なれば來會者ハ午前九時頃より續々とし

て運動場に趣き定刻迄には總數百八十餘名の多きに達

せり預て用意せし如く山頂には幔幕を打張りて休憩所

に充て其前後を以て運動場とせり馳て第一擊析を報す

るや平地競走を初む先つ競走者を分て二十五人一組と

なし凡そ五六丁を隔てたる旗を取らしめ其第一及第二先着者に賞品を與ふるなり之れを初めとし一脚競争、襲略競走、優等者平地競走、非常襲略競走繫劍、角力等あり孰れも日頃の手並(足並をも)を顯せし時などは縱令迅足の名を得たる載宗、劍法の奥義を極めたる柳生但馬守、力量を以て鳴りし野見宿彌等か蘇生すとも、いかてか之れに優るべき、殊に非常襲略競走の如きは過きにし昔、九郎義經か鶺鴒越の險を降りし事など思ひ出てゝ一段の興を副へたり右終りて一同へ酒肴を配り各十二分の歡を盡し散會せしは己に太陽の地平線下に落し頃なりき又同日競走先着者にして賞品を得たる々は笠間、新保、原、藤井(秀)、二川、柴原、村本、遠藤、萱人場、藍澤、鶴見、澤田(米次郎)、天田、澤、鼻山(潤太郎)の十五氏なり

●會頭の撰舉競争 今度東京醫會の正副會頭撰舉に

就ては目醒しき競争ありし由にて平民派は官臬を帶ひさる佐々木東洋、長谷川泰の兩氏を正副會頭に舉げんとし役人派には三宅秀氏を會頭に橋本綱常氏を副會頭に戴かんとし互にを削りしか遂に平民派の勝利となり役人派は散々敗北せりと奈何に競争の世の中なりとて醫會にまで之れを及すとは……………

●分列式 本月三日は天長節に付き祝意を表せんか爲め醫學部學生は本部生徒と共に同校体操場に於て分列式を行ひ後ち御眞影を拜して 兩陛下の萬歳を祝し奉り午前十一時頃散校せり

●談話會 去る八日第四高等中學校職員談話會を長町川岸教育俱樂部に於て開會せり當日の來會者は醫學部及本校職員等四十餘名にして教育上有益なる談話をなし散會せしは午後六時頃なりしと

●藍綬章下賜 醫科大學教頭大澤謙二氏は第三回

勸業博覽會の審査委員となり周到、綿密に能く其職務を盡せし廉を以て去る四日敕定の藍綬章を下賜されたり

●第二高等中學校醫學部卒業生 佐藤能之助(宮城)

乳井廉(秋田)内田卓爾(長野)根本雄吉(秋田)小口高文治(宮城)大内小六(同)の六氏は同醫學部の卒業試問に及第し醫學全科を卒業せられたり

●醫術開業試驗委員長の交迭 去る一日長與專齋氏は願に依り醫術開業試驗委員長を免せられ三宅秀氏之れか後任となれり

●傳染病豫防消毒心得書 今般内務省に於て

定められたる同心得書中總則及虎列刺の部は本誌第十二及十三號に掲げたれば以下腸弟扶斯の部より掲載すへし

## 腸弟扶斯

腸弟扶斯ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ含リ「コレラ」病毒ノ如キ不潔汚穢ノ土地ニ蕃殖瀰蔓シ廣ク流行ノ勢ヲナス者ナレハ其豫防ノ方法ニ至テモ虎列刺ト畧其趣ヲ同フス抑モ本病ハ六種染病中最多キ疾病ニシテ各地方年々其患者ヲ發生シ流行ノ兆ヲ見サル事ナシ明治十三年傳染病豫防規則發布以來十年間ノ患者三十一萬餘死亡七萬餘ノ多キニ及ヒ加フルニ流行時期ノ長キ病症經過ノ久シキヲ以テ公衆ノ安全幸福ヲ損害スルニ至テハ却テ虎列刺ヨリ甚タシキ者アラントス故ニ本病流行ノ兆アルニ當リテハ速ニ充分ノ力ヲ盡シテ撲滅シ併セテ第二ノ流行ヲ豫防センコトニ怠ルナカランヲ要ス

第一條 腸室扶斯又ハ之レニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- (一) 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶ツ
- (二) 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- (三) 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ニス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- (四) 患者ノ糞便ヲ取扱フニハ其人ヲ定メ置クコト

(五) 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキ

モノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞便ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ濯キ所定ノ便所ニ移スコト

(六) 患者ノ上リタル便所ニハ少クモ糞便量十分一ノ

石灰乳五十分一ノ生石灰若クハ五十分一ノ石炭酸水ヲ濯キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ濯クコト

(七) 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ糞便ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

(八) 患者ノ身體、糞便及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ糞便ニ汚染セサル様注意スルコト

(九) 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ糞便ニ觸レサル様注意シ且ツ其糞便及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ流フコト

(一〇) 患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲

料水ハ必ス煮沸セサレハ之ヲ用ヒサルコト

第二條 腸窒扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

(一) 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト

(二) 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但シ己ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト

(三) 芥溜ヲ播除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ之ヲ改修スルコト

(四) 飲食物ハ成ルヘク熟煮シテ之ヲ用フルコト

(五) 總テ熱性病ニ罹リ又ハ下利ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條 腸窒扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

(一) 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ改修スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト

(二) 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

(三) 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト  
 第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以  
 テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其  
 委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

### 赤痢

赤痢ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ含リ之ヨリ傳染ス  
 ルモノニシテ病性大ニ腸室扶私ト類似スルモノナリ故  
 ニ其豫防消毒ニ於テモ略々腸室扶私ト同一ノ方法ニ據  
 リ而シテ流行時ニ於テハ瀉下物中ニ血液ヲ混セサル患  
 者ト雖モ本病者ト同様ニ取扱フヲ要ス

抑々本病ハ腸室扶私ト同シク頗ル慘毒ヲ逞クスルモノ  
 ニシテ明治十三年以來十年間ノ患者數殆ト二十万ノ多  
 キニ及ヒ殊ニ九州四國ノ諸縣ノ如キハ一年ニ流行ノ  
 勢ヲナシ病毒漸次ニ全國ニ浸淫セントス故ニ本病ノ年  
 々發現スル地方ニ於テハ土地ノ清潔チ力メ殊ニ飲料水  
 ニ注意シ下水ヲ浚渫シ發病時ニ當テハ撲滅ノ方法ニ充  
 分ノ力ヲ盡シテ第二ノ流行ヲ防ク等總テ腸室扶私ニ於  
 ケルカ如ナランヲ要ス(未完) (十月二十七日官報)

●流行性感胃再ひ來襲す 流行性感胃は一時全く消滅

せしか近頃再ひ流行し常尋常師範學校男生從の如きは  
 一頓に六十五名罹病せり之れ爲め同校は當時授業休止  
 中なりと

●藥學科卒業生 淺野駒太郎、藤本鉄太郎、倉重與三  
 郎、高橋秀、神代良太郎、龜田安太郎、高島初四郎の七氏  
 は當藥學部第一回藥學卒業試問に及第せられたり

●私立金澤衛生會臨時總會 會頭岩村高俊、副會頭  
 徳久恒範の兩氏轉任に付き去る十日金谷館に於て臨時  
 總會を開き正副會頭を撰舉せしに船越衛、郷田兼徳の  
 兩氏當撰せり後常會を開き上杉寛二、中村順次等諸氏  
 の演說あり終りて食物調理法の實驗をなせしと云ふ

●衛生學醫術開業試驗課目中に入る 衛生學の該試  
 驗課目中に入る事は屢々耳にする處なるか本月五日内  
 務省に於て開會せし中央衛生會の決議に依て愈々試験  
 課目中に入るゝ事となれり